

姫津線建設工事

鐵道省岡山建設事務所長

田代 瑞穂

中國横斷鐵道の一部である姫津線は、起工以來十ヶ年の歳月を閲して、愈昭和十一年四月八日全通の喜びを見るに至つた。其線路建設の概要を示せば

區間距離 姫路、津山間86軒250米
測量開始 大正十三年二月
工事着手 姫路方 昭和二年七月
 津山方 昭和七年九月
建設費 5,254,300圓

1軒當建設費 60,920圓
使用セメント數 473,470袋
線路單線 軌間 1米067
匂配最急 1,000分の20
曲線最小 240米
保安設備 第一、第二種聯動裝置
運轉方式 通票閉塞器式
隧道 7個所 延長2,915米4
橋梁 40個所 延長1,923米6

(1) 姫津線 ☆



切取 431,967立米

築堤 788,164立米

であつて、全線概ね平坦な播磨平野の間を通つて、纔に國境附近の錯綜した丘陵地帯に於て掘鑿の工稍大きなものあるの外は、工事は一般に困難なものは少なかつたが、何分沿線の大部分に美田、良圃が連なる爲、道路及灌溉用水路等の付換竝伏樋工事の多かつたことが本線の特色である。

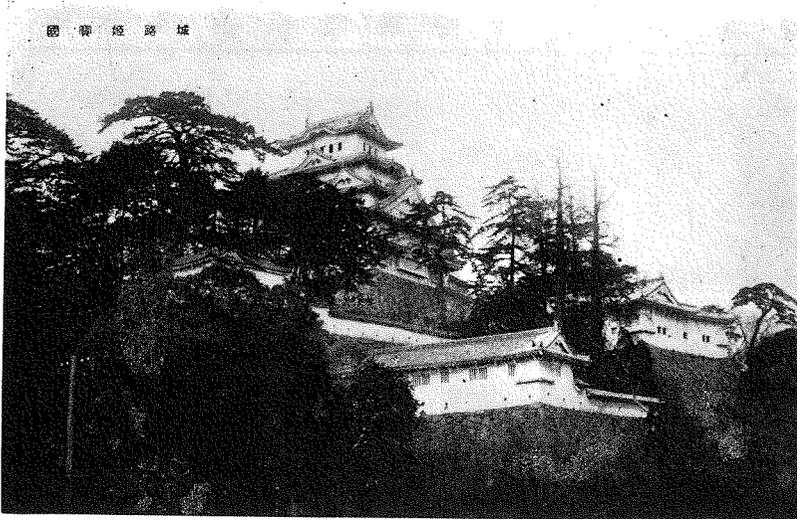
姫津線と云ふのは、鐵道敷設法（大正十一年四月法律第三十七號）の中に別表第八十四號として、「兵庫縣姫路から岡山縣江見を経て津山に至る鐵道」の一項がある。是が姫津線の抑の起りて、大正十二年の五月に始めて岡山建設事務所の所管に編入せられ、昭和十一年四月八日全通するに至つたのである。

路 鳥 瞰 圖。

此の鐵道は姫路、津山間の捷徑を成すもので、山陽本線岡山から私設中國鐵道を經由するものに較べて、約60軒、倉敷、新見を迂回するものに比して、優に150軒の距離を短縮することになる。斯くて津山を中心に因美、作備の兩線と相俟つて、陰陽を連絡し、中國に於ける交通系統の完全を期すると共に、沿道の豊富な農、林、鑛産等物資の需給を益々便にして、蠶業製糸業の發達に將亦軍事上に資するところ誠に多いと云はねばならぬ。

山陽本線の姫路驛を起點として分岐した新線路は、白鷺城を右に、一路平圃の間を西に進んで播磨高岡驛に出る。是れから夢前川を渡つて余部驛に出るが、此の余部驛から東北3軒(播磨高岡驛から北4軒)で、西國第二十





(2) 國寶姫路城。

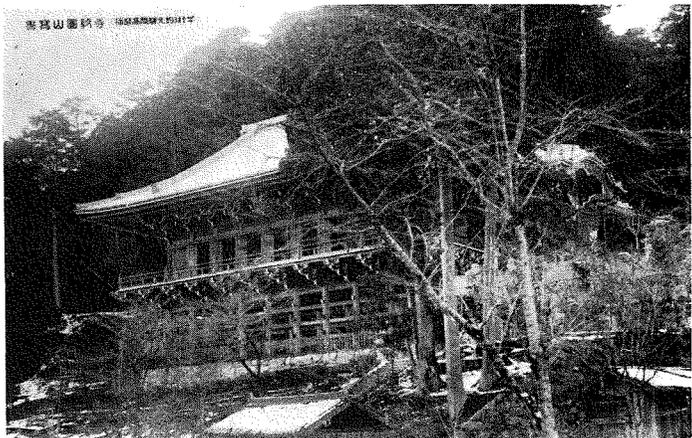
方約500米に當る。千本驛、それから猶進んで西栗栖驛を過ぎ、三日月停車場迄に栗栖川を渡り、相坂隧道を穿ち、角龜川を渡ること再度に及ぶのである。

線路は更に延び

て志文川を渡り、此の川の清流に沿ふて右折し、徳久隧道を貫き、千種川を渡つて播磨徳久停車場に出で、更に佐用坂峠に佐用隧道を穿ち、縣道に沿ひ漸次下つて佐用驛に至る。清流千種河畔に米田の松原がある。老松密生し夏季鮎漁、避暑に來遊する者多く、播磨徳久驛から西南約500米許りに當る。尙此驛から東北約14軒余で船越山がある。將來縣立公園となすべく計畫が進められ、同山には天平三年創建にかゝ由緒ある瑠璃寺が在る。

佐用驛の東北約300米の處に大公孫樹があ

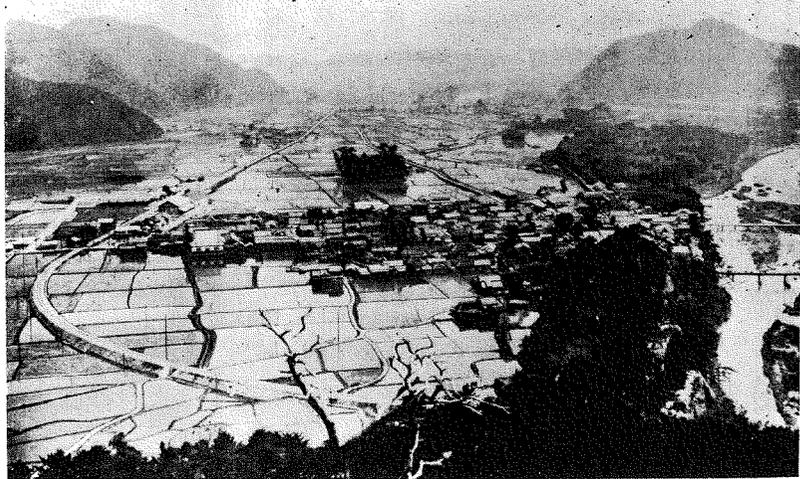
(3) 書寫山圓教寺(播摩高岡線北約3軒半)



國鐵全通線誌上視察・中國橫斷鐵道姫津線

七番の札所である書寫山圓教寺に達する。太市驛を過ぎて丸山隧道を穿ち、林田川を渡つて本龍野驛に出る。此處から西北2軒で龍野神社に達するが、此の神社の背後山腹に野見宿禰の墓が在る。こゝは揖保川の清流を見下し、遙に煙波の間に淡路島を望んで眺望絶佳である。次は東鶯崎停車場で、此の驛から北約500米許りに屏風岩と云ふのがある。文部省指定の天然記念物で、地質學上有名な斷層とされて居る。揖保川を渡れば播磨新宮驛で、附近には揖保郡八景の一に數えらるゝ小嵐山がある。京都の嵐山そつくりの形をして揖保川に臨み、山紫水明恰も一幅の畫を見る様で奇岩老松の雅、奔流碧潭の趣、實に清遊一日の好適地である。又此の附近一帶は鮎漁場としても知られて居る。此の驛から東

東 鶯 崎 停 車 場 附 近



(4) 東 鶯 崎 停 車 場 附 近。

るが、周囲10.9米高さ32.7米もあつて樹齡二千年を経ると謂はれ、此の附近から美作路にかけては後醍醐天皇御向輦の際の御事蹟が多い。

佐用川の左岸、平圃の間を南西に進んだ線路は、右折して佐用川を渡り、川の左岸に出て小日山川との合流點で、再び佐用川を渡り上月驛に出る。太平山上月城趾は驛から南1軒の所に在る。此處から次の美作土居驛迄の間に、播美の國境に當る万ノ峠がある。此の間約6軒700米に亘るものが即ち未完成播美鐵道であつて、昭和九年六月是が用地及工作物の一切を買収して改築を施したものである。此間主なる工作物としては、判官山と万ノ峠の兩トンネルである。万ノ峠のトンネルを出ると線路の左側、即ち美作土居

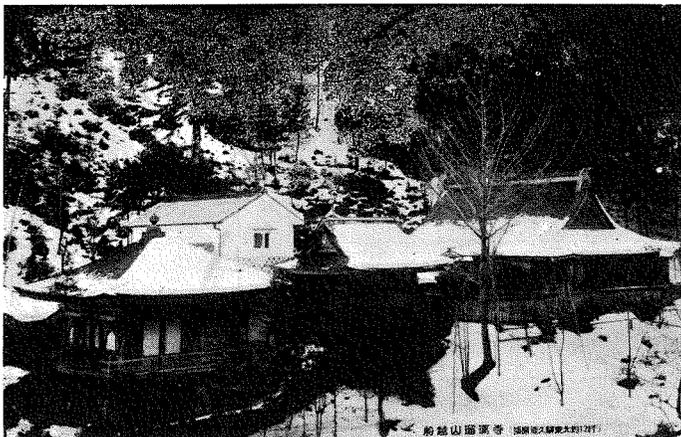
驛から東約600米の所に四ツ塚が在る。勤王の土佐藩士が、幕末の頃義徒を募り奔走する中、雄圖空しく遂に當地に自決し、之れを祭つてをるものと云はれ、四時香煙絶えないさうである。

此の美作土居驛から東南約4軒余に白水の瀧があつて、雌雄の二瀧から成り、雄瀧は高さ約20米幅3米、雌瀧は高さ幅共に約4米ある。

線路は是れから起伏の多い耕地を西北に進んで、吉野川を渡り美作江見驛

に出る。此驛の東約5軒に杉坂峠がある。後醍醐天皇隱岐へ御遷幸の砌、兒島高德の盡忠と共に歴史上余りにも有名である。此處から吉野川の左岸を過ぎ檜原村平福から右轉して一の峠を越し、梶並川を渡り林野驛に出る。名高い湯郷温泉も此の驛から西南約3軒で鶯ノ湯温泉とも云ひ皮膚病

(5) 船越山瑠璃寺(播摩徳久驛東北約4軒)



國 鐵 全 通 線 誌 上 視 察 ・ 中 國 横 斷 鐵 道 姫 津 線

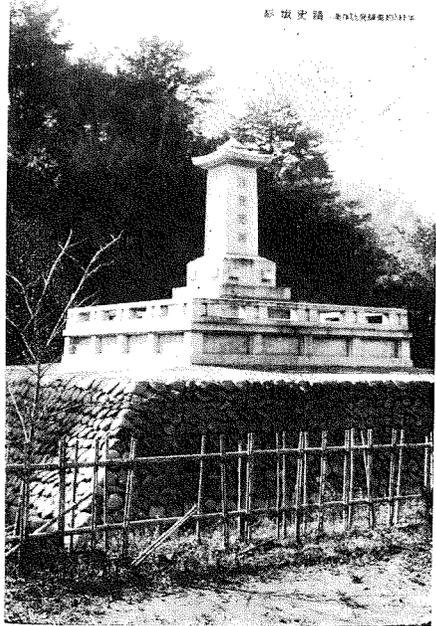
國鐵全通線誌上視察・中國橫斷鐵道姫津線

に特効があると謂はれてゐる。線路は更に平圃の間を縣道と離合して瀧川に出で、第二瀧川、第三瀧川を渡り、將來日本原陸軍演習場の門戸ともなるべき勝間田停車場に着く。更に三度第一瀧川を渡り漸次上つて、千本ヶ池を横り美作大崎驛を過ぎ、廣戸川を渡り、縣道に沿ふて左曲しつゝ天神原の峠を切り取り、加茂川を渡つて東津山停車場に出る。此處で因美線と合し津山驛に到り、作備線と連絡するのである。

本線は工事の竣功を俟つて逐次部分的に次表の如く營業を開始した。

區 間	概	
姫路、余部間	6.100	昭和5年9月1日
余部、東薨崎間	11.720	同 6年12月23日
東薨崎、播磨新宮間	4.200	同 7年7月11日
播磨新宮、三日月間	14.480	同 9年3月24日
三日月、佐用間	9.300	同 10年7月30日
佐用、美作江見間	17.020	同 11年4月8日 (全通)
美作江見、津山間	23.290	同 9年11月23日

又各工區の起工月日や、請負者及金額等を擧ぐれば下の通である。



(6) 杉坂史蹟(美作江見驛東約3軒半)

猶沿線一帶に亘つて、前述の通り米、麥、木材、薪炭、其他各種の鑛産物が豊富であつて、更に製絲業や、農家の副業として養蠶も盛んである。

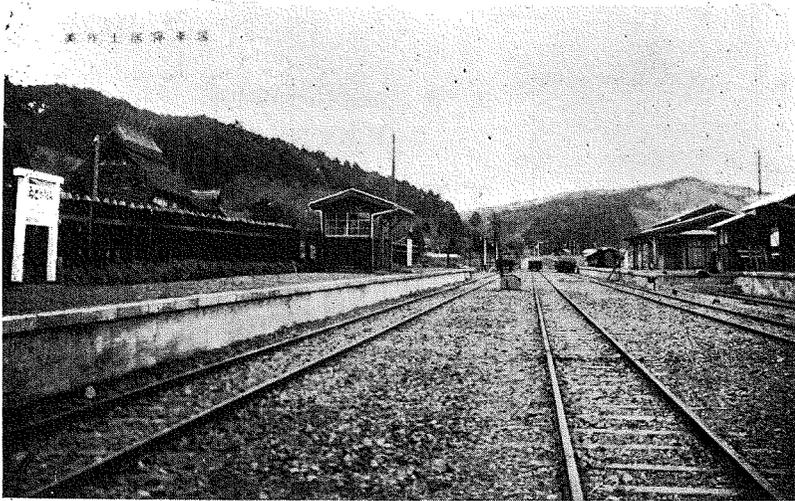
工 區	區 間	當初請負金額	着手竣功年月日	請 負 者
姫路口第一工區	姫路=余部	74,500,000	昭和 2. 7. 5 4. 9. 19	藤原 作十郎
同 第二工區	余部=東薨崎	278,000,000	同 4. 5. 22 5. 12. 20	株式會社 藤原組
同 第三工區	東薨崎=新宮	61,500,000	同 6. 3. 17 7. 3. 21	同
同 第四工區	新宮=西栗栖	73,000,000	同 7. 2. 29 8. 5. 5	同
同 第五工區	西栗栖=三日月	233,600,000	同 7. 4. 26 8. 10. 21	松浦 伊平
同 第六工區	三日月=佐用	448,000,000	同 7. 10. 26 10. 1. 25	同
同 第七工區	佐用=上月	56,980,000	同 9. 8. 26 10. 8. 24	株式會社 藤原組
同 第八工區	上月=土居	62,500,000	同 10. 1. 10 11. 1. 31	同
同 第九工區	土居=江見	43,000,000	同 9. 9. 1 9. 9. 21	今西 末吉
津山口第一工區	東津山=勝間田	106,500,000	同 7. 9. 22 8. 9. 21	西山合資會社
同 第二工區	勝間田=江見	99,600,000	同 8. 2. 5 9. 2. 3	株式會社 藤原組

東津山起點8村200米附附近



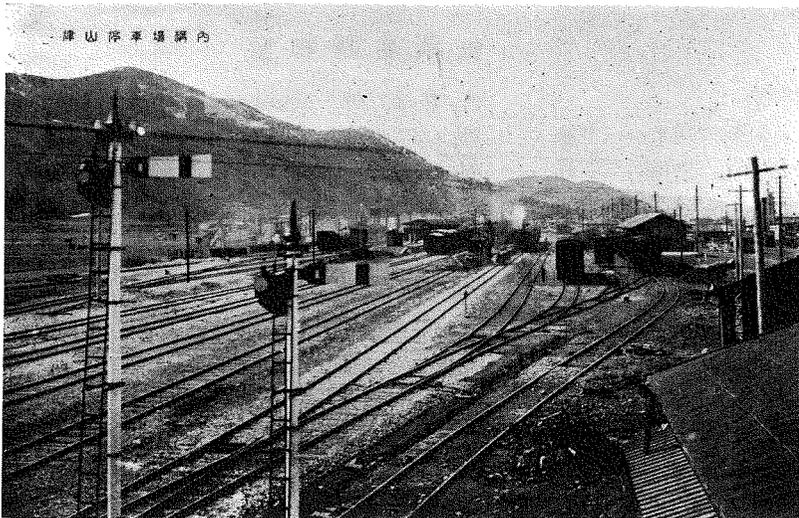
(7)
東津山起點
8村200米附
近の本線。

美作土居停車場



(8) 美作土
居停車場。

津山停車場構内



(9) 津山停
車場構内。

國鐵全通線誌上視察・中國橫斷鐵道姫津線